

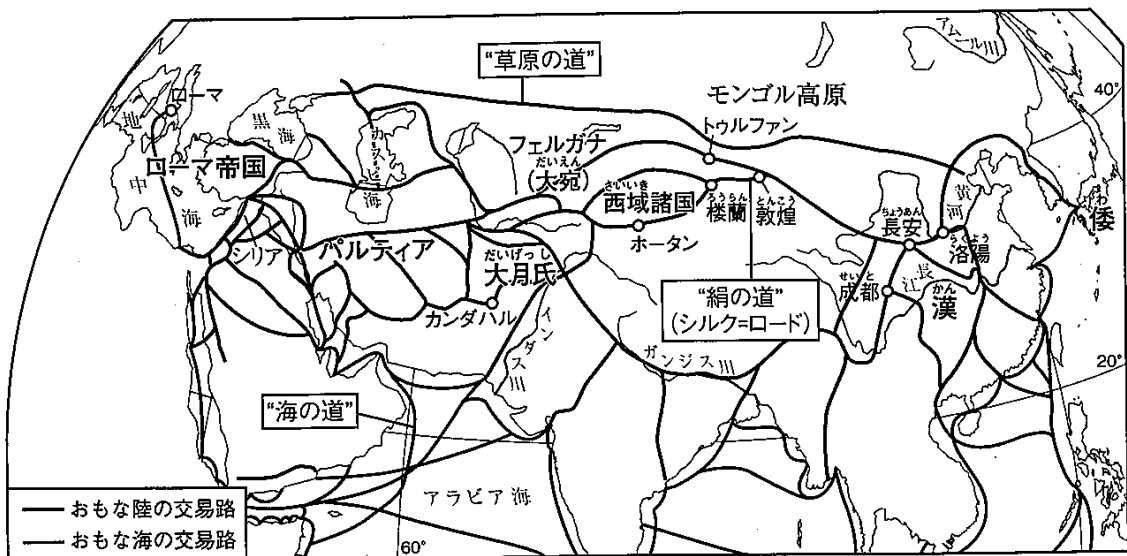
シルクロード

少し前ですが、ユニクロの製品が新疆綿（しんきょうめん）を使用しているのではないかと、アメリカで輸入差し止めになる事件がありました。この新疆綿というのは、中国の新疆ウイグル自治区で生産される綿糸で、これが現地の人々の強制労働によりつくられているという国際人権団体の告発があって、そのような問題が起きたのです。

新疆ウイグル自治区は中国の一番西にあって、天山山脈などの険しい山脈とタクラマカンなどの砂漠がある地域です。中国の国民の多くは漢民族ですが、それ以外に55の少数民族が居住していて、ここには主にウイグル民族が住んでいます。中国政府はウイグル族やチベット族などの少数民族の独立運動に対して厳しい対応をとっており、新疆綿の工場でウイグル族が強制労働させられていると国際人権団体が告発したことも、それに関連したことがらといえます。

子どもの頃、スウェーデンの探検家スウィン（スヴェン）・ヘディンという人の「さまよえる湖」（中公文庫など）という本を読んだことがあります。ヘディンが調べたところ、タクラマカン砂漠の中を流れる「タリム川」の流れの向きが千年単位で変わり、その結果水の溜まる湖も千年単位でできたり消えたりするというものでした。湖の名はロプノール。かつてはその湖のほとりに楼蘭（ろうらん）という都市が繁栄したのです。ヘディンはタクラマカン砂漠の中を探検して、楼蘭の遺跡などさまざまな発見をしますが、もともとこのあたりをシルクロード（ユーラシア大陸の東西を結ぶ交易路）が通っていたので、どこもかしこも歴史遺産の宝庫なのです。私が高校生の頃はちょっとしたシルクロードブームで、1980年に始まったNHKの特集番組が高い視聴率を誇っていました。1972年に日本と中国の国交が再開され、次第に日本のマスメディアが中国に入ることができるようになったことで、このような番組の作成が可能になったのです。その頃は中国本土を日本人が一人で自由に旅行することはできませんでした。

なぜか綿から絹（シルク）に話がかわっていますが、シルクロードの名前の由来は、中国で生産された絹がヨーロッパに運ばれる道だったことによります。具体的には中国の古都長安からローマを結ぶ交易路で、何本かのルートが知られています。絹は古くから中国で服飾



1年生の使用している「明解世界史A」（帝国書院）より

材料としての生産が行われ、ヨーロッパをはじめとして世界各地に輸出されましたが、輸入国では安定的で高品質な自国生産技術がなかなか確立しなかったようで、長らく中国の輸出品の中心でした。

この絹を中心とした古代から中世にかけての貿易で、ユーラシア大陸の東西はさまざまなモノや情報を交換し、新疆ウイグル自治区などのある中央アジアは「文明の十字路」と呼ばれるようになります。ウイグル人の中に、はっとするような瞳の青い人がいるのも、まさにそのことの象徴であるように私は思います。

シルクロードについては、海のシルクロードや日本のシルクロードなど、いくつか触れておきたいテーマがありますので、これから何回かに分けて書いていこうと思います。時事的な内容も織り交ぜながら書きますから、受験生の3年生もぜひ読んでください。

受験勉強をしていると、こんな些末なことを覚えたりするのに意味があるのか？と落ち込むことがあると思いますが、日常のくらしや時事問題との結びつきを考えながらやると、意義が見いだせる時もあると思いますよ。